★プール水によるコロナ感染のリスクはありません

プールやプール水の衛生基準などは、厚生労働省や文部科学省、国土交通省。更には各都県、各市町村において厳重な取り決めがあります。特に水質については、遊離残留塩素、PH 値、大腸菌、一般細菌、有機物類、濁度、トリハロメタンをはじめ多岐に亙ります。プールは数ある運動施設の中でも特に衛生管理が徹底されている施設の一つと云われる所以でしょう。

その中でも安全な水質を保つ上では“塩素”が大切です。消毒設備として唯一“塩素”による方法が、その有効性や安全性故に日本では認められています。“塩素”濃度が正しく管理されたプールにおいては、大腸菌などの細菌は瞬時に死滅しますし、咽頭結膜熱などを引き起こすアデノウイルスも不活化。勿論、新型コロナウイルスも同様です。“塩素”消毒されたプールで、プール水を介して新型コロナウイルスに感染する可能性はありません。最近、新型コロナ感染予防のためにアルコール除菌と同様に“塩素”による除菌が叫ばれるのも“塩素”の有効性のためです。

プール水による新型コロナウイルスに感染リスクはありません。「プールで結膜からの感染可能性」のような報道に接することもありますが、現代は、循環／消毒設備のない大昔の水溜りのようなプールとは違います。事実誤認以外の何ものでもありません。

(1)全米疾病センター(CDC)は「適切にオペレーションし、消毒したプールでは新型コロナウイルスは死滅するはずです。何故なら、新型コロナウイルスは飲料水中で検出されていません。ほとんどの自治体の飲料水システムなどの濾過と消毒とを使用する従来の水処理方法は、新型コロナ感染症を引き起こすウイルスを除去または不活性化するはずです。」としています。水道水の殺菌消毒に用いられるのも、プールの消毒と同じ”塩素”です。若し、適切に管理されたプール水からウイルスが検出されるなら、同じ殺菌消毒法を採る水道水からもウイルスが検出されるはず…という逆説的なエビデンスと云えるでしょう。

(2)一般社団法人日本スイミングクラブ協会は、塩素消毒の有用性と併せて、「適正な湿度(50～70%)を保つことでプール施設内は感染防止に優れ、感染リスクが低い」ものとしています。

(3)HNK テレビの番組内において、プール内の感染リスクは「低い」と放送されています。アクラブでは、更に目や肌への刺激を低減させる“塩”から作った電解次亜塩素やオゾンによる殺菌を併用し、安心で安全なプールの提供に努めています。